



TITLE:

第三年度諸報告

AUTHOR(S):

CITATION:

第三年度諸報告. 天界 1924, 4(38): 101-101

ISSUE DATE:

1924-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160018>

RIGHT:

天文同好會報告

毎年十月に開催すべき總會は大正十二年九月の震災のために中止せしも、臨時總會は四月開催、新城、上田兩師の御講演を願ひたり。

同好會近況

臨時總會に於いて選舉の結果、上田助教、荒木講師本會の幹事となり、海老氏は從前の如く會計係として、編輯、事務の實際に掌はりたり。

支部増設

山口高等學校に野垣寛之教授の勞によつて山口高等學校支部を、仙臺に大石三郎君の宣傳によつて仙臺支部を新設せり。

名譽會員

岡山の水野千里氏は多數會員紹介の功により而して鳥取の大坪雄太郎氏は寄附金により、共に名譽會員に推薦せられたり。

天文同好會事業報告

(第三年度 大正十一年十月より 大正十二年十二月末迄)

事業報告

講演 例會

支部例會

(神戸にて荒木講師出演)

臨時講演會

講習(岡山、尼崎にて)

出版 雜誌「天界」

アレテン

天文急報

二回
十四部
數部
數部

實地觀測會(月蝕と流星) 二回
會員總數(十二月末、震災の爲約四十名の退會 約一〇五〇
不明者を出す) 六名

外に名譽會員

雜誌寄贈

毎月三十五部

交換雜誌

天文月報、現代之科學、理科教育、科學世界、海と空、科學知識、科學叢報、地學雜誌、氣象集誌、地質學雜誌、水路要報

書籍豫約購入の件

事務係が英、獨星圖を多數繼めて注文し、希望者に分つ事せり。其の第一回豫約分は十二年末迄に到着せり。

會計報告

(自大正十一年十月至大正十二年十二月末) 收入之部

會費收入	四〇一五、八〇〇
出版物實上	六八〇、四八五
寄附金	六一〇、〇〇〇
廣告料	一五九、五〇〇
預り金	二二一、三八〇
雜收入	六一七、九九〇
觀測部費	五〇、九七〇
前期繰越金	四六、六二〇
計	六四〇二、七四五
支出之部	
備品費	二九、六〇〇
消耗費	九〇、六七五

雜誌及諸印刷費 二六九三、四八〇
事務費 七七五、〇〇〇
原稿料、編輯料 三九七、〇〇〇
預り金戻シ 一二四五、五六〇
一時取替金 二〇〇、三七〇
雜費 三三一、八八〇

計 差引繰越金(十二月末現在) 六三三九、一八〇

說明

收入の部に於いて一時預り金とは書籍豫約購入のために一時預りし金を意味す。廣告料及天界取次小賣代金の中金百圓餘東京警醒社より未收入となり居る、同店は震災の爲めに全焼せり。觀測部費の減收は係員の責任もあれど部員の減少及び部費滞納に基因す。

支出の部に於いて預り金戻しは山本氏の時代に望遠鏡代として預られし金の戻し及び星圖豫約金の支拂を含む。
繰越金六百餘圓は前金支拂者の會費なり、前金切の會員は前金支拂者に對して負債せる者と云ふを得べし。
尙古賀和吉に同氏星圖印刷に付き本會の負債せる金額未支拂のまゝなり。
本期より會計期を毎年十二月末に變更せし事に注意ありし。

(會計係)